

第 2 4 回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 2 月 17 日(金) 16:00～17:15	
開催場所	薩摩川内市役所 602会議室	
出席者	委員	吉満会長、小島副会長、外薮委員、上梶委員、中野委員、徳田委員、山本委員、山下委員
	事務局	企画政策部長、行政改革推進課長、同課長代理、同課職員
	傍聴者	なし

□会次第

会次第	主管課・室
1 開会	—
2 平成28年度補助金等評価の平成29年度当初予算編成への反映状況について	—

□議事

1 開会

○会長

(挨拶)

2 平成28年度補助金等評価の平成29年度当初予算編成への反映状況について

(説明後、質疑・協議)

○委員 【補助金番号10】次世代エネルギー事業推進補助金は、平成30年度をもって廃止するとあるが、エネルギー関係の事業に関して企画政策課では、将来展望を見越して予算を増やすと聞いている。課によって、考え方が違ってくるのか。

○課長 本市では、新エネルギーや新エネルギー発電施設の普及に取り組んでおり、その先に、新エネルギー関連の企業誘致や雇用を見据えている。企画政策課が見ているのは、この部分である。発電設備の部分としては、本委員会からの指摘があったとおり、これまでと同じようにする必要はないのではないかということで平成30年度をもって廃止とすることとした。決して、企画政策課と新エネルギー対策課の考え方が違うわけではない。

○部長 新エネルギー対策課の次世代エネ

ルギー事業推進補助金は、発電施設の導入促進のための補助金である。企画政策課の事業とは、エネルギー転換事業のことをおっしゃっているのではないと思う。原子力発電所が30年を過ぎ、今後、いつ廃炉を迎えるか分からないが、本市の産業として、原子力発電所に頼らず、次の産業を展開していくために今から考えていくとして、企画政策課が取り組んでいる。本質的に事業が違うと思うのでそのようにご理解いただきたい。

○委員 我々の意見が一つの契機になり、主管課がこれを踏まえた工夫をされた面が見られて、我々ももう少し意見を言うべきだったかなと反省している。予算額の部分については、表に出るが、今後、表に出ない部分については、予算枠のなかでいかに効率よく運用するか、運用の在り方について、十分ご配慮をいただければありがたい。

○事務局 意見・要望として承る。

○委員 【補助金番号40】薩摩川内市土地

改良区補助金は、外部評価として「繰越金や役員手当の適正化に努め、事業に重点を置かれたい。」と意見を出したが、予算額も変わっておらず、改善が見られない。研究グループを立ち上げて事務改善に取り組み中であるということだが、これは指摘を受けなくても既に取り組んでないといけない。取り組み中であること自体が後手に回っている。もう少し改善をしてほしかった。

○課長 耕地課は、1回の審議で終わらずに2回にまたがって審議をした非常に重い案件だった。2日目には、薩摩川内市土地改良区事務局長を呼んで説明してもらった。これまでの実績として役員報酬を削減したと一部説明はあったが、本委員会としては、更なる検討が必要なのではないかとということで、厳しい意見を付した。意見を踏まえて、研究グループの立ち上げたわけだが、それは後手じゃないかという委員がおっしゃる指摘もあるかもしれない。本日の資料というのは、市のホームページ上に公表する。これまでの補助金等評価報告書も既に市のホームページに出ており、誰でも見られる環境にある。ある意味、各課に対して、本委員会、当課からプレッシャーをかけている。研究グループが立ち上がって、どのような結果につながったのか来年以降も見たい。補助金評価は条例にも基づき3年に1回見直しを行わなければならないので、薩摩川内市土地改良区補助金も3年後再び補助金等評価を受けることになる。それまでの間、改善されないというのは、あってはならないことだと思う。予算額や報告書の提言の運用についてもその後の状況をしっかり注視して、場合によっては厳しい形で伝えていきたいと思う。

○委員 薩摩川内市土地改良区補助金は、予算規模も大きいし、いろいろな基金があったりしているので、そういうのも含めて、

役員手当の適正化に努められたい。

○委員 補助金等評価をするなかで各課に共通して言えることがある。例えば、市民目線で補助金を考えるなど、このように各課に共通して言える項目を行政改革推進課長から各課に対して、毎年、周知する必要があるのではないかと。そうでないと評価する側は、毎年同じようなことを言わなければならない。2年間を通してこのように感じた。各課に共通する項目について、周知が行き渡っているのか疑問に思ったこともあった。毎年、同じような意見が出るのはよくないと思うので、主管課長を集めて、年に1度くらい周知をする必要があると思うので、提案としてお願いしたい。

○課長 今の意見を真摯に受け止めて、一歩踏み出したいと思う。現状をお話しすると当課では、担当課長に当委員会の提言に沿った形で当初予算に反映してくださいと通知文を出す。これはあくまで文書であり、このなかには、各課に共通するような文言は含まれていないので、今後は、通知文のなかに過去に意見が出ているが見直しがされていない各課に共通する事項を入れ込んでいきたい。また、資料2のように実際どのような見直しを行い、予算はいくらになったかという照会をかけており、各課と文書でのやりとりはしている。そこをもう少し踏み込んで、当初予算編成時の財政課の資料や説明会を活用しながら全庁的に意見が反映できるように工夫していきたいと思う。

○委員 補助金の予算配分は、行政改革推進課が決めているのか。

○課長 当課が決める権限はもっていない。財政課が施策毎に決めている。当初予算は、前年度をベースにしながら施策毎に優先順位をつけて予算編成している。優先度が低いものについては、カット率も大きい。一律一割カットまではいかないが、7パーセントカットなど財政課からカット率に

ついて方針が示される。もちろんそのなかには補助金も含まれている。補助金については、行政改革推進委員会の提言を踏まえて、予算要求するようにと財政課から指示がある。

○委員 当委員会の委員の意見は、市民の声だと思っていただきたい。

○課長 当委員会の意見は、とても重いもので、各課に対してのプレッシャーも大きいと思っている。当委員会では、補助金等評価の他に公共施設の再配置計画や学校施設の改修についても御意見をいただいた。当委員会の皆様の経験と知識を施策に生かしていくためにも、今後様々な分野で当委員会を活用していきたいと思う。また、補助金等評価報告書については、市のホームページ、記者クラブや議員の方々にも主要事項処理経過報告という形で、提示しており、職員も自分のパソコンで提言がいつでもすぐに見ることができる環境になっている。当委員会の皆様の提言というのは、非常に重みを持ったなかで、いろんなところに出している。今後、更に当委員会を活用していきたい。

○委員 有人国境離島法の関係で、国が、船賃の低廉化や物流の支援などに取り組んでいるが、甑島への本土からの入れ込み、観光客を含めたこの部分について、重点的に取り組むのであれば、市も1市4町4村が合併した一体感の醸成という面で、国県予算措置に、市が上乗せを行うなど、段階のご配慮を平成29年度、平成30年度してもらいたいと思っている。

○部長 有人国境離島法は、今年4月に全面施行されるもので、航路運賃の低廉化など4つの事項で制度を4月から運用することで当初予算に盛り込んである。島民の方への低廉化については、予算措置したが、本土からの旅行者やビジネスで甑島を訪れる方に対しての航路運賃の低廉化はまだ実現されていない。旅行エージェントに

対する補助金ということでは、今回、予算措置し、限定的なもので初年度運用するとしている。国の50億という予算規模を倍の100億に増やしていくという要望活動も進めていかなければならない。委員からのご意見も踏まえて、進めていきたい。

○委員 この2年間、いろいろな経験を通して、考え方や意見がせまいと感じたことが結構あった。本市の未来を背負っていく人材を育てる意味からも、若い人を海外に派遣、出張させるようなシステムを構築してはどうか。例えば子育てや老人介護なら北欧など先進国がある。そうでないと、どうしても井の中の会議になってしまう。人を育てて、見識を広めることで、また違ったアイデアが出たり、良い施策ができるのではと思う。ぜひこのような取組も必要じゃないかなと思うのでご検討いただきたい。

○部長 ヒト・モノ・カネ・情報などいろいろなものを駆使して新しい施策をつくっていかねばならないが、そのなかでもヒトという部分は、大事な要素だと思っている。本市は、排他的だとか保守的な部分もあるという意見もあるかもしれないが、先輩方のなかには、新しいものを取り入れてやっていこうという人たちもいた。若い職員が市外や国内、外国に行って、学ぶことは非常に大事なことだと思う。それにどれだけの予算をつぎ込むかということの部分もあるので、それを司っている総務課とも協議をしていきたいと思う。

○会長 市役所におけるアカデミー室のような部署の設置だと思う。各部署から派遣を行い、アカデミー室の人たちが派遣で得た情報を各部署に情報共有するというそういうことだと思う。

○部長 市の職員が、経済産業省や国土交通省など国県との人材交流というのはあるが、海外への派遣などの部分については検討していきたい。

(平成２９年度当初予算のポイント説明)

○委員 明治維新１５０周年は、どのような事業をされるのか。

○課長 明治維新１５０年の節目に向けて観光客等のおもてなしの向上を図るため、本市にゆかりのあるエピソードや薩摩藩の足跡を紹介するとともに、「西郷どん」(平成３０年放送)ゆかりのエピソードマップ等を作成するものである。

○部長 NHKの大河ドラマの脚本が今までと違い、人間じみた生活感のあるところを描くという情報があったため、西郷隆盛が島に流された話や薩摩高城温泉に来て、うさぎ狩りをした話など県内の各自治体がエピソードを出し合っている。どれが採用されるかはNHK側が考えると思うが、エピソード集やマップの作成、ワークショップの開催などを含めて、予算２００万円と計上されている。本市をNHKにアピールして、観光客を本市に呼び込もうと取り組んでいる。高城温泉は、よか湯協議会が結成され、古き良き温泉街を復活させようとかのような方々が、行政とタイアップして一生懸命に取り組んでいる。

○委員 ぜひこれが一つの大きな契機になることを願っている。